

市民アンケート結果報告

(令和 6 年度市民意識調査、令和 6 年度団体アンケート)

区分	現 状
強み	・市民参画・協働が必要だと思う市民の割合が 64.0%と前回よりも上昇している。(市民アンケート) ・すでに参加している地域の活動として、祭りなどの地域の伝統行事を含む文化・芸術や国際交流に関することや、地域のにぎわいや活気に関することの割合が高く、前回と比較しても上昇している。(市民アンケート) ・地域の活動へ参加する動機として、社会や地域への貢献や、誰かと交流したり繋がる機会の確保の割合が高い。(団体アンケート)
弱み	①66.8%の市民が地域の活動や行事に参加していない。(市民アンケート) 参加することによる時間的負担や、知り合いや一緒に参加する仲間がいないといった原因によって地域の活動への参加が阻害されている。(市民アンケート) ②地域の人との関わりは不必要だと思う市民の割合が 12.7%であり、前回よりも上昇している。(市民アンケート) 地域の人との関わりが不必要だと思う理由として、人間関係がわずらわしいことや、忙しく、関わっている時間がないことが高い割合で回答されている。(市民アンケート) ③市民参画・協働が不要だと思う理由として、時間や手間がかかり非効率だと思うことや、公的な事業は市が行うべきと思うことが高い割合で回答されている。(市民アンケート) ④市民の声を届ける方法や機会について何も知らないと答えた人の割合が 38.9%と最も高くなっている。(市民アンケート) ⑤地域の活動を実施するうえで、次の担い手が育たないことや、効果的な情報発信ができていない事が課題としてあげられている。(団体アンケート)
外的要因	・困難な課題の解決を図るために、行政だけでは超えられない壁を市民とともに解決していくという視点がより一層重要となっている。 ・働き方改革の推進。 ・人生 100 年時代の到来。 ・全国的に進展する人口減少や少子高齢化による人口構造の変化。 ・共働き世帯の増加。 ・一人ひとりの価値観の多様化等に伴う市民のライフスタイルの変化。 ・社会課題の多様化・複雑化と社会課題領域の広がりに伴う行政サービス拡充ニーズの高まり。 ・新型コロナウイルスの影響による活動の一時縮小・中止。 ・デジタル化の急速な進展